



石井晴夫教授

石井晴夫教授退任記念号に寄せて

経営論集第 93 号は、石井晴夫教授の退任記念号としてお届けする運びとなりました。これまでの学術研究の発展に対する功績、そして学生指導や学部運営へのご尽力に厚く御礼申し上げます。

今回は、石井晴夫教授と同じ経営学科の西澤昭夫教授に、巻頭言の執筆をお願いいたしました。

なお、経営学科の小畠正稔教授、会計ファイナンス学科の会田富士朗准教授におかれましても、本年度をもって本学を退職されます。

諸先生方の新たな門出を祝し、ここに感謝の言葉をお贈りいたします。

2019年3月15日

経営学部長 長 島 広 太

石井晴夫教授は、旧国鉄系の財団法人運輸調査局に研究員として入局、国鉄本社経営計画室にも出向され、国鉄の分割・民営化や鉄道政策など、幅広い調査・研究に携わってこられました。特に、国鉄の分割・民営化が実施された 1987 年前後において、旧国鉄が有する鉄道通信網の商業化や多角化などに関する海外の事例研究を含め、今日の JR グループにおける事業戦略の基礎となる、優れた研究成果を発表されました。こうした研究業績が認められ、1989 年 4 月に開学した作新学院大学経営学部創設教員として招聘されるとともに、ブリティッシュ・コロンビア大学やノルウェー交通経済研究所における短期の客員研究員、及び参議院運輸委員会調査室客員調査員などを歴任されました。

石井教授は、鉄道、航空、高速道路などの交通分野から、上・下水道、エネルギー、情報通信 (ICT) に至るまで、公益事業全般を研究対象とされております。その成果は、公益事業学会や日本交通学会などにおいて、数多く発表され、併せて、公益事業学会会長として学会の発展に大きく寄与されるとともに、政府や自治体の政策立案にも積極的に関わってこられました。こうした該博な研究業績に裏打ちされた的確なコメントは、多くのマスコミ関係者から高い評価を受けております。

2006 年 4 月に本学経営学部に奉職されて以降、学部、大学院における経営学、現代の経営、企業論などの講義と演習を担当され、各界で活躍される多くの修了生や卒業生を送り出しておられます。また、経営学科長、経営学専攻長、現代社会総合研究所長など、様々な研究・教育にも積極的に関与され、多大なるご貢献をされました。こうした石井教授のご活躍とご貢献に対し、心から敬意を表したいと存じます。

石井教授は、2019 年 3 月をもって本学経営学部を退職されますが、4 月からは大学院経営学研究科客員教授として、引き続き院生の研究指導を行って頂く予定です。

石井教授の今後の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

2019年3月15日

経営学部経営学科教授 西 澤 昭 夫